



松庵だより

第721号 9月号

令和8年8月31日

杉並区立松庵小学校



見て、感じて、考えて～この夏の経験から～

副校長

今年から最高気温 40 度以上の日を「酷暑日」と呼ぶようになりました。東京では過去最高に暑かった昨年度に比べると「猛暑日」は少なかったものの、7月下旬の厳しい暑さは多くの方の記憶に残っているのではないのでしょうか。また、ゲリラ豪雨も多く発生しました。松庵小のプールでは、水位が上がり「あふれてしまうのでは」と警備員の方が心配されるほどでした。さらに深夜に携帯電話や防災無線が鳴り響く地震もありました。自然災害は決して遠い場所の出来事ではなく私たちの日常のすぐそばにあることを改めて実感した夏でもありました。

熊本県では震度7を観測する大きな地震が発生し、全国的にも記録的な豪雨による大規模な浸水被害もありました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と日常生活の回復をお祈りいたします。

さて、この夏、高校野球の熱戦をテレビ越しに応援しました。推しは、わが子の友人の母校です。私にとっては全く情報のない他県の学校でしたが、その日のメンバーだけでなく、ピッチャーの身長・体重、球速、出身中学、小柄でがっしりした体格などのコメントを生成AIは、瞬時に教えてくれ応援に熱が入りました。生成AIの便利さを感じました。一方で、生成AIに病院探しのお手伝いをしてもらいました。病院ごとの特徴や強みを分かりやすく整理して教えてくれたのですが、決め手になる情報ではありませんでした。最終的には、知人の「任せられる先生」の一言を信じ病院を選びました。生成AIの情報に「もやっ」としました。

また、この夏は長崎県の平戸市や雲仙市を訪れました。私にとっての「平戸」は、社会の教科書に出てくる「南蛮貿易」「ザビエル」「キリスト教弾圧」といった言葉で知る場所でした。お寺や池などいくつかの場所で、「キリスト教弾圧」の様子について記されていました。当時の様子を描いた文章や絵は、あまりにもむごたらしく、人はこれほどまで残忍になれることに気付き、教育の大切さを強く感じました。重ねて、書物の中で知り得たことと実際に五感で感じたことの心への刻まれ方の差を感じました。一見は百聞に如かずです。

長い休みも終わり子どもたちが、学校に戻ってきます。夏休みならではの体験や経験を重ね、一回り成長した子どもたちに会えることを楽しみにしています。2学期には、体育学習発表会や展覧会などの行事もあり、様々な場面で友達と関わり合いながら学びを深め成長する時期です。情報を上手に活用しながらも、実際に体験し、自ら考え主体的に行動する力を育てていきたいと思っています。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

研究（小中一貫教育）について

研究主任

杉並区では、小中一貫教育の取り組みを推進しています。本校では、高井戸第二小学校・西宮中学校と合同で年間4回の研修を行います。互いの授業を公開し、9年間を見通した学習指導を目指して情報交換をしています。また、家庭学習や生活指導、特別支援教育など、各校での取り組みを紹介し合い、地域の学校として同じ方向を向いて教育活動をする事ができるように協議を進めています。6年生は、10月に中学校体験を行い、授業や部活動の様子を学びます。高井戸第二小6年生との顔合わせの機会ともなる予定です。

このような取り組みを通して、「中1ギャップ」とも言われる小中学校間の壁をできる限り取り払い、子供たちが安心して進学できる環境を整えています。今後とも、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。